

1. 社会・治安情勢

リオデジャネイロ州全域で拳銃，機関銃，手榴弾等を使用した殺人，強盗等の凶悪事件が引き続き多発している。特に，近年，リオデジャネイロ市内に約1,000箇所存在するといわれるファベラ（貧民街）を中心に，麻薬密売組織間の銃器を使用した抗争が頻発し，治安に重大な影響を与えてきた。これを受け，軍警察は，2008年に最初の軍警察治安構築部隊（UPP）をドナ・マルタ地区のファベラに設置し，以降，大規模な制圧作戦を継続している（2016年4月現在，リオ市内に計39のUPPを設置し，約270のファベラを管轄）。

UPPをはじめとした治安当局による麻薬密売組織対策活動において度々銃撃戦が発生しているほか，治安当局の取締りに反発するファベラ住民と軍警察との間の抗争も活発化しており，流れ弾による一般市民への被害も散見される。

また，依然として貧困層の若者による「アハスタウン（地引き網）」と呼ばれる集団強盗事件が市内中心部，海岸及び幹線道路沿いで後を絶たない。治安当局もこれらの取締りを強化しているが，健全育成の方針を主眼とした少年法の影響により，逮捕した被疑少年の多くがすぐに釈放されてしまう等，警察による取締りが治安改善に直結していない現状にある。

本年開催される2016オリンピック・パラリンピック・リオ大会に向け，リオ州政府としても，治安を担当する公安局を中心として，一般治安の改善を最優先課題の一つとして取り組んでいるが，州の財政難による警察力の低下（超過勤務の抑制，警察車両の使用制限等）にも起因して，市民の体感治安はむしろ悪化している現状にある。

また，州の財政難に起因して，本年6月には，州文民警察による，未払い給与の即時支払いと劣悪な勤務環境の早期改善を求めるストライキが実施されており，今後の治安への悪影響も懸念されている（本年7月15日時点，国からの交付金により，給料未払い問題は一旦解決された）。

2. 一般犯罪・凶悪犯罪の傾向

（1）第1四半期総括

リオ州公安局統計では，本年1月から4月までに発生した路上強盗・窃盗事件の総数は3万8,461件で，去年同期（3万1,083件）と比べて23.7%増加している。また，殺人事件に関しても，本年1月から4月までに発生した数字は昨年1,488件であったのに対し，本年は1,715件と，約15.4%増加している。

一般治安悪化の理由については，まずは当地の経済事情の悪化が挙げられるが，相次いで新設されたUPPに多数の人員を配置したため，既存の警察署

において人員不足が深刻化していることや、UPP の取締りにより麻薬取引に従事できなくなった末端の者達による路上強盗が増加していることなども指摘されている。

第 1 四半期においては、特に 5 月中、フラメンゴ地区、ボタフォゴ地区、コパカバーナ地区といった邦人が多く居住し、多数の日本企業が所在する南部地区において強盗事件が多発したほか、携帯電話を狙った強盗がリオ市全体で前年から大幅に増加するなど体感治安の悪化が懸念されている。

また、5 月中のリオ州における交通機関内強盗（バスジャック事件が多数を占める）の発生件数は 3 2 6 5 件で、前年比 8 1 4 件増加しており、引き続き市バスの利用には十分な注意が必要である。

2 0 1 5 年のリオ市の人口 1 0 万人当たりの犯罪発生率は、日本との比較で殺人が約 2 5 倍（2 0 1 4 年は 2 3 倍）、強盗は約 6 6 0 倍（2 0 1 4 年は 5 1 0 倍）と極めて高い比率で推移している。

3. リオ州犯罪発生状況 2 0 1 6 年 5 月（前年同月比増減数）

	リオ州	リオ市
殺人	3 6 8 (+ 2 1)	1 0 6 (- 9)
強姦	3 7 1 (+ 1 8)	1 1 5 (- 3)
商業施設強盗	5 9 8 (+ 7 3)	2 5 7 (+ 1)
住居侵入強盗	9 1 (+ 8)	3 7 (+ 6)
車両強盗	3 2 6 5 (+ 8 1 4)	1 6 0 6 (+ 3 9 0)
路上強盗	7 4 8 7 (+ 2 0 7 1)	3 7 3 6 (+ 5 1 9)
交通機関内強盗	1 0 3 0 (+ 3 8 7)	5 1 0 (+ 1 4 3)
携帯電話強盗	1 4 5 1 (+ 5 3 5)	7 3 9 (+ 1 6 1)
強盗総数	1 6 4 3 8 (+ 4 4 7 3)	8 2 5 7 (+ 4 6 4)
窃盗総数	1 3 5 0 6 (- 1 3 2 8)	7 3 7 4 (- 3 5 7)

2. ZONA SUL 犯罪発生状況 2 0 1 6 年 5 月（前年同月比増減数）

フラメンゴ・ボタフォゴ地区

殺人	0 (± 0)
商業施設強盗	1 4 (+ 7)
住居侵入強盗	2 (+ 2)
車両強盗	2 9 (+ 1 4)
路上強盗	1 1 3 (- 4 0)
交通機関内強盗	2 0 (+ 7)
携帯電話強盗	3 7 (± 0)
強盗総数	2 4 6 (- 8)
窃盗総数	4 4 0 (+ 3 1)

コパカバーナ地区

殺人	2 (+2)
商業施設強盗	13 (+5)
住居侵入強盗	1 (±0)
車両強盗	1 (+1)
路上強盗	38 (+15)
交通機関内強盗	6 (+5)
携帯電話強盗	7 (-3)
強盗総数	108 (+47)
窃盗総数	503 (+15)

イパネマ・レブロン地区

殺人	2 (+2)
商業施設強盗	10 (±0)
住居侵入強盗	1 (±0)
車両強盗	7 (±0)
路上強盗	47 (-8)
交通機関内強盗	9 (+4)
携帯電話強盗	11 (±0)
強盗総数	133 (+24)
窃盗総数	396 (+14)

3 一般事件等（邦人の安全に関係するものを抜粋）

(1) リオ市内レブロン地区で銃撃戦が発生、二人を逮捕

4月14日（木）午後5時頃、リオ市レブロン地区 クルザーダ・サン・セバスチアン集合住宅付近において、麻薬取引に起因するものと思われる銃撃戦が発生し、その後、到着した警察により男性（30歳）、女性（27歳）の2名が拳銃の不法所持の疑いで逮捕された。

(2) 4月21日（木）午後6時頃、リオ市イパネマ地区ヴィスコンジ デ ピラジャ通り (Rua Visconde de Pirajá) のアニバル デ メンドンサ (Rua Anibal de Mendonca) 通りの角に所在のスーパーマーケット「Lojas Americanas」前路上において強盗を企図していたと思われる不審者2名と「Lojas Americanas」の警備員との間で銃撃戦となり、警備員の他、流れ弾により計3名が負傷した。負傷者はガベアの病院に運ばれ、不審者は逃走した。

(3) リオ市内ボタフォゴ地区で発砲事件が発生

4月25日（月）朝、リオ市ボタフォゴ地区 Viaduto Santiago Dantas（ボタフォゴ湾から Rua Pinheiro Machado に抜ける高架橋）付近において、二人組の少年が自転車強盗を敢行し、逃走しようとしたところ、自転車を漕いで

いた方の少年が何者かによって銃撃を受け、その場に倒れた。もう一人の少年は徒歩でそのまま逃走した。撃たれた少年は駆けつけた救急隊員によって救助され、同地区の市立病院に搬送された。

(4) リオ市内幹線道路（オリンピック・レーン）付近で発砲事件

6月9日（木）未明、市内幹線道路リーニャ・アマレーラ（Linha Amarela（当館注：リオ市がオリンピック期間中に専用レーンとして使用する旨発表している道路））のガレオン空港とバッハ地区との中間地点付近で、ブラジル人女性（海軍所属の心理学者で射撃競技のオリンピック代表候補との報道もあり）が不審者により発砲を受け、重傷を負った。

(5) リオ市内市立病院を武装集団が襲撃

6月19日午前3時頃、リオ市内セントロ地区の市立病院（救急指定病院）に25人の武装集団が押し入り、入院していた逮捕中の麻薬密売組織幹部を奪還した。また、その際に、軍警察との間で銃撃戦に発展し、死傷者が出た。

※ 奪還された被疑者は、6月13日に文民警察により逮捕、その際に負傷して同病院に入院中していたもの。

※ 容疑者らが病院を出る際に、軍警察官との銃撃戦に発展し、居合わせた患者1名が流れ弾に当たり死亡したほか、同軍警察官1名、看護師1名が負傷した。

※ 軍警察副司令官によれば、リオ州公安局では、同襲撃に係る事前情報を得ており、軍警察5人による緊急警備を実施していた。

(6) リオ市内フラメンゴ埋め立て地公園で強盗事件

6月19日（日）午前中、リオ市内フラメンゴ埋め立て地公園（英国総領事館前バス停）において、オーストラリア人（パラリンピック・セーリング競技のオーストラリア代表選手）が、2人の武装した男に襲われ、自転車を強奪される事件が発生した。

(7) サンタ・テレザ地区で「パンク窃盗」が発生

6月5日（土）午前中、サンタ・テレザ地区で、短期滞在中の日本人がパンクした車両を修理中、車内から現金等を持ち去られる被害に遭った。

※発生状況から「パンク窃盗」の可能性があり。

(8) 幹線道路における強盗殺人事件の発生

6月25日（土）の夜間、リオ市北部のパヴェーナ地区付近、当地幹線道路リーニャ・ベルメーリャのセントロ地区方面に向かう車線において、女性（34歳の医師）が頭部を撃たれて殺害される事件が発生した。警察は、けん銃使用の強盗殺人事件とみて捜査を行っている。

(9) その他（文民警察官によるストライキの実施）

リオ州文民警察の労働組合（S i n d e l p o l - R J）が中心となり、6

月26月7日(月)8時から16時までの8時間、観光客の被害届を受理する観光警察署を含む、ほぼ全ての文民警察署でストライキを実施した。

この間、リオ州における文民警察の活動は通常の30%の人員で行われた。文民警察観光警察によれば、同日中は、急を要する被害を除いて被害届の受理は行わず、また、緊急事件を除いた捜査も行わなかったとのこと。

4. テロ・爆弾事件発生状況

事件の発生は認知していない。

5. 誘拐・脅迫事件発生状況

邦人被害は確認されていない。

2016年5月中、リオ州内で短時間誘拐7件(うちリオ市4件)、脅迫140件(うちリオ市63件)が発生しており、いずれも高い水準で推移している。

以上